

北秋田市 地域おこし 協力隊
きたあきたの 魅力発掘 vol.38

2年目もがんばります！

地域おこし協力隊の山田健太郎です。「マタギ文化」に興味があり、昨年4月に阿仁地区に移住しました。

昨年は、現役マタギで松橋旅館のオーナーである松橋利彦さんに手取り足取り教えていただきながら、マタギの生業の調査をさせていただきました。季節とともに移り変わるマタギの生業は、自然と関わることの喜びや厳しさが混然一体となっていて、一言ではまとめられないほどの得難い体験ができたと感じています。

協力隊2年目となる今年は、引き続き「マタギ文化」についての体験などに加え、阿仁地域全体の情報発信を地域産物等の「販売」とともにやっていければと思っています。

この1年をとおして「マタギ文化」に限らず、阿仁という地



山田健太郎隊員

域全体がとてもおもしろい気がつくことができました。クマを撃てるのはマタギだけですが、山菜、きのこ、川魚、木の葉などなど、この地域には、いろいろな魅力があります。しかし、自分が体験した魅力を情報として発信するだけでは、なかなか伝わりませんでした。だからこそ、その発信に地域産物等の「販売」を加えることで、よりリアルに阿仁を感じてもらえる仕掛けを作っていけたらと思っています。



狩猟後のきのこ採り

私が見た北秋田
Kitaakita from My Eyes NO.55

ショーン
ヨリガン



タケノコ採り

去年の今頃、森吉山でタケノコを採りに行ってきました。頂上のまだらな残雪を眺めながら、笹の中を探っていました。天気はタケノコ採り日和……むしろ暑かったです。

職務の一環として週に一度、英語を指導している「あきたリフレッシュ学園」の野外活動として体験してきました。「あきたリフレッシュ学園」は、県内外の小中学生がゆとりのある教育を受けながら、北秋田市の恵まれている大自然の中で、昔から伝わる「秋田ならではの遊び方」を体験する施設です。学園指導員として児童生徒の安全等を見守りながら、自身も普段からできないこのようなことを体験し、北秋田の伝統生活が学べるありがたい機会となっています。

中止された令和2年チャレンジデーの代わりに汗をかき、採りたてのタケノコで作った昼食のタケノコ汁は美味しく、充実感たっぷりでした。空腹が最高の調味料なのかもしれません。ただ、タケノコをむいた後の捨てる皮の量が半端なく、残りの実が少なすぎるのを見てガッカリするのは、私だけ？



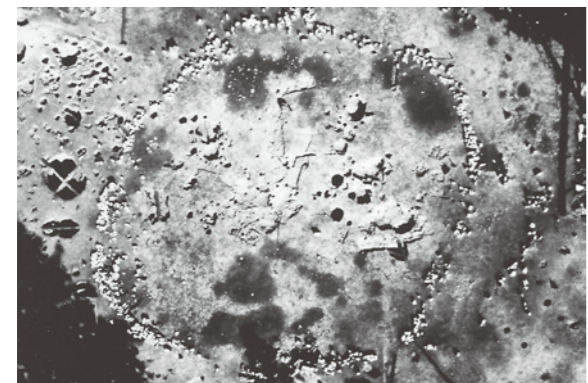
伊勢堂岱遺跡メモリーズ
発掘 学芸員コラム vol.4
世界遺産物語！



第4回
環状列石がつくられた時代背景

伊勢堂岱遺跡は、ユネスコ世界文化遺産への登録が近づいています。このコラムでは、伊勢堂岱遺跡について、発掘・保存など最新の研究を交え、改めて紹介したいと思います。

伊勢堂岱遺跡は、環状列石（ストーンサークル）を中心とした遺跡で、環状列石が4つも見つかっている遺跡は、全国でも他にありません。ユネスコ世界文化遺産を目指している「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、17カ所の縄文遺跡がまとまり、縄文文化の価値を表しています。17



▲空から見た伊勢堂岱遺跡の環状列石A

遺跡は「集落」「貝塚」「記念物」という種類に分かれます。集落は人が住んだムラの遺跡、貝塚は沿岸で採取した貝の殻を捨てた遺跡、そして記念物は「コ」字状に巨大な盛土を築いた垣ノ島遺跡（函館市）、掘り上げた土を周囲にドーナツ状に盛った墓が見つかっているキウス周堤墓（千歳市）など、マツリや祈りの遺跡で、集落・貝塚といった日常生活に関わる遺跡とは異なるものです。記念物の中にもっとも有名なものが、河原石を1000個以上使って丸く並べた環状列石です。ご存じのように、大規模な土地造成をして環状列



▲伊勢堂岱遺跡の墓

石をつくった痕跡が見つかった小牧野遺跡（青森市）、日本最大級の2つの環状列石が見つかった大湯環状列石（鹿角市）、そして伊勢堂岱遺跡があります。環状列石は、縄文時代後期（四千年前）になると、北緯40度より北の地域で一斉につくられました。縄文人は、なぜ腹の足しにもならない環状列石のような巨大な遺構をつくったのでしょうか。縄文時代後期の少し前の縄文時代中期では、三内丸山遺跡に代表されるような、竪穴建物が多く発見される大集落を営んでいました。しかし、

中期以降、せいぜい竪穴建物（家が2〜3棟の小さな集落が多くなり、遺跡数も激減しました。つまり、人口の激減です。その後、縄文時代後期になると、小さなムラに分かれて住んでいる縄文人は、マツリや葬式を行うために、環状列石をつくります。環状列石は、みんなで集まって葬式や祭祀を行うことで、人々が団結を深めるための機能があったと考えられています。縄文時代中期末の人口減少には原因があるはずで、具体的に指摘した研究者はほとんどいませんが、小林達雄氏（國學院大学名誉教授）は、インフルエンザのような感染症によることを以前から指摘しています。今のコロナ禍において、この指摘はいろいろ考えさせられます。かつて縄文人が感染症を乗り越え、環状列石に集まってマツリをしたとしたら、現代の私たちもコロナ禍を終息させて、伊勢堂岱縄文館に集まって縄文まつりなどのイベントができればいいですね。

北秋田市学芸員